

## 東京湾のスナメリ

たる はじめ  
樽 創 (学芸員)

スナメリ (*Neophocaena phocaenoides* (Cuvier, 1829)) というクジラ類をご存知ですか？ 小型のハクジラ類で、体長は2mほどです。クチバシはなく、体色は明灰色、背ビレがないことが大きな特徴で、英名は“finless porpoise”（ヒレの無い小鯨の意）です。日本では宮城県沖から沖縄までの沿岸域に広く分布しています。

今年（2011年）2月8日に横須賀市の走水海岸で、イルカの遺体が打ち上がっている、と連絡を受けました。早速、対応のために博物館から車で現地に向かいました。現地につくと、1.5mほどの海生哺乳類の遺体がありました（図1）。この個体は船のスクルーがあたったためか、頭部は壊れて欠損していました。よく見ると背ビレがありません。このことから頭部がなくても、スナメリということがわかりました。スナメリには背びれはありませんが、背中に“畝（うね）”状の隆起部があります（図2）。この畝の表面には小さな突起が多数あり（図2）、コミュニケーションに利用されているらしいのですが、その機能は明らかになってはいないようです。観察記録では、母親が子どもをこの畝の上に乗せて運んでいたという記録があるそうです。

神奈川県のスナメリの記録は、新しいもので2006年5月30日に横浜港での子ども（♀）の記録があります（図3）。この個体は横浜・八景島シーパラダイスに保護されましたが、残念ながら3月18日に死亡してしまいました。今回の発見はそれに続く、神奈川県での貴重な記録となります。

日本沿岸に生息するスナメリについて



図3 2006年に保護されたスナメリの子ども、写真：横浜・八景島シーパラダイス。

は、DNAの塩基配列の違いから、5つの地域集団に分けられています。それらは「仙台湾-東京湾集団」「伊勢-三河湾集団」「瀬戸内-<sup>ひびきなだ</sup>響灘集団」「大村湾集団」「有明海-<sup>たちばなわん</sup>橘湾集団」と呼ばれています。2006年に保護・死亡した子どものスナメリは、DNAの解析から「仙台湾-東京湾集団」の東京湾よりの海域に分布する集団、それから「伊勢-三河湾集団」にまたがって分布するグループに見られる遺伝子の型と同じ

であることがわかっています。今回の個体のDNAの調査結果はまだ明らかになっていませんが、東京湾に生活する集団の一部と考えられることから、その結果が注目されます。

さて、スナメリの世界での分布は、東は日本、西はペルシャ湾までのアジアの沿岸域です。3亜種が記録されており、日本近海に分布しているのは、*N. p. sunameri*という亜種です。体色が明るく、背中の“畝”の幅が狭いことが特徴です。

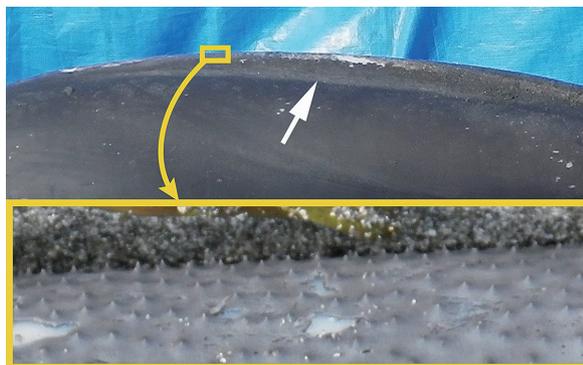


図2 上:スナメリの背中の“畝”（白矢印）；下:“畝”の表面の突起。

食物は小魚、イカ、エビ、植物性のものも食べます。各地の沿岸域での開発による環境破壊、汚染が進んだことで、スナメリの生息環境は悪化しているといわれています。東京湾は、環境が回復してきているといわれているので、今後、スナメリが増えてくれることを願っています。



図1 横須賀走水の海岸にストランディングしたスナメリ。右側が頭部、左側が尾部。頭部は欠損している。スナメリの体色は淡い灰色だが、死亡後には変色して、濃い灰色となっている。

自然科学のとびら

第17巻3号（通巻66号）

2011年9月15日発行

発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館  
館長 斎藤靖二

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846

<http://nh.kanagawa-museum.jp/>

編集 山下浩之

印刷所 文化堂印刷株式会社

© 2011 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

